

ペンネーム

千葉のニューリバーかずちゃん

【エピソードのタイトル】

ヨーイ スタート！ 母に感動を

【エピソードの内容】

平成9年秋、4歳の娘と2歳の息子を抱え離婚。千葉には身内はなく、子供は保育園に朝一番に預け、一番おそくの迎え。仕事と育児におわれていた。1年経過し、やっと仕事も慣れてきたやさき、作中信号無視の車との事故で上半身麻痺、頸椎固定手術。福岡北九州で暮らす母親は心配するものの自分の体もおもわしくなく、手伝いにくる事は難しく、何度も「ごめんね。」と言われた。

事故から10年目の3年前、医師から症状固定と言われ、手足のしびれが残ったままだったが、永年の治療は終了。すっかり体力はなくなり、体力をつけるためにウォーキングを始めた。(それがいつのまにかにランニングになり、フルマラソン。そして、今年は富士五湖 112km・夢の島 24 時走までをエントリーするまでになった。後遺症の手足のしびれの体と対話しながら ラン！！)

その頃母親は入退院を繰り返して、何度も危篤状態を乗り越えてきた。強い生命力。そんな母から去年「死ぬまでに元気になった和枝の走っている姿が見たい。」と言われた。その願いを叶える為に、去年地元に近い下関海響マラソンを走った。10数年ぶりの再会。車椅子の母親を兄が押しながら私を追いかけた。折り返しがあるこの大会では、何度も母親を見つける事が出来た。近寄って声をかけると、子供のようにしゃべり声援してくれる。無事に母親の目の前でゴール。大会終了後、マラソンなんかあんなくだらないあんなきついものどどこが楽しいのか、バカげていると言っていた兄から、「初めてのマラソンを目にして、すげえすげえーよ。感動したよ。来年は自分も走ってみたくなったよ。俺走れるかな？がんばるよ！来年も帰ってきてくれよ。」と。現在、離れた場所でそれぞれ練習に励む。が、今年6月母がまた意識を失くし入院。今回はダメかと思っていましたが、奇跡！！8月下旬に退院。電話口で母は「ますます体がゆうこと効かないよ。でも11月は楽しみにしているからね。でも無理はダメだからね。」と。

当日、車椅子姿でレンインボーのアフロのかつらをつけた“和子ばあちゃん”が会場にいます。

見つけたら、声をかけてくだされば Happy です。

私はフルマラソン7回目。兄は5kの大会さえ未経験でいきなりのフルマラソン初挑戦！

無事に母親の目の前でゴールして一緒に感動をあたえるぞー！！

ヨーイ スタート！